

共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」を用いた変体仮名教材制作

山本 聡 美

はじめに

本研究課題（平成二十六年共立女子大学総合文化研究所研究助成「変体仮名教材作成の研究」）では、変体仮名学習用の教材制作を目標のひとつに掲げた。また、その教材が視覚障害者と嗜眼者がともに利用できる、ユニバーサルなものであることを目指した。これは、本件助成期間中の本学文芸学部にて、視覚障害を持った学生が在学していることに対応するための検討課題でもあった。

視覚障害者が、古典文学をくずし字の原文で読むための方法は未だ確立していない。本研究課題では、点字を触読する方法を応用し、立体印刷した変体仮名の教材を用いることで字形を理解することができると考え、その方法を試みるための教材開発に取り組んだ。本稿では、教材制作過程と、それを用いた授業の展開に関する報告を行う。

一 素材の選定

本件で教材化する古典素材として、本学図書館所蔵「竹取物語絵巻」（図1、以下では共立本と呼ぶ）を選定した。本作は近世初頭の制作とみられる上下二巻の絵巻で、一九八〇年代の購入で本学所蔵となった。これを教材として用いる第一の理由は、大学所蔵の貴重書を用い古典を身近に感じながら学ぶ経験が、全ての履修学生にとって大きな学習効果をもたらすと考えたからである。また「竹取物語」の本文は、通年（変体仮名を既習の学生であれば半期）の授業で通読するのに適当な分量であり教材として扱いやすい。さらに学生にとっても、中学・高校時代の古文学習を通じてその内容に親しみがあるはずである。

共立本は、国文学や美術史学の領域で近年関心の高まっている奈良絵本系絵巻のひとつで、詞書には金泥によって下絵を描いた豪華

共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」を用いた変体仮名教材制作

な料紙を用い、絵の格調も高く極めて良質な作例である。その成立は、『源氏物語』『伊勢物語』、そして『竹取物語』などの古典文学に基づく豪華版の絵巻や絵本制作が流行した十七世とみられるが、同時期に制作された他の現存「竹取物語絵巻」と比較しても、完成度の高さでは群を抜いている。詞書や画面に欠損や錯簡もなく、保存状態も良好であるので、教材として申し分ない条件を備えている。

二 教材化の方法

共立本を教材化するに際して、以下三段階の作業を研究協力者との分担で行った。

(1) 原本の撮影

二〇一五年二月に、本学図書館において「竹取物語絵巻」上下二巻の撮影を実施した。撮影に際しては、複写台にデジタル一眼レフカメラを固定し、デイライトによる照明を用いた。

(2) 詞書の教材化

前述(1)で撮影した画像データに基づき、詞書の文字だけを抽出する加工を施した。当初、この作業は視覚障害学生のための教材として、詞書の文字を立体印刷することを第一の目的としていた。ただし、この作業に基づく教材を実際に授業で用いてみると、晴眼者である他の学生にとっても変体仮名の字形を正しく理解する上で有効であることが判明した。先述したように、共立本の詞書料紙には豪華な下絵が描かれており、変体仮名をはじめて学ぶ学生にとって、原本のままでは文字を識別しにくい側面がある。文字だけを抽出した教材を用いることで、この点が改善された。

詞書の文字を抽出し立体化教材を作成する方法は、二〇一三年度から二〇一四年度にかけて本学文芸学部日本語日本文学コースで開発した、視覚障害学生の古典学習教材作成の作業手順を踏襲した。本件における実際の作業は、研究協力者の入江彩美氏(本学卒業生、成城大学大学院文学研究科博士前期課程在学)に分担してもらい、以下の方法で立体化教材を作成した。①フォトショップを用いて画像のコントラストを調整し、墨色だけを抽出する。②一行ごとに切り取った画像を作成し(図2)、それをA4用紙一枚につき五行ず

つの配置で再構成する(図3)。^③これをプリントアウトしたものを、コピー機でB4のカプセルペーパーに拡大転写する。^④文字を転写したカプセルペーパーを立体コピー作成機(アメデア製ROM)にて立体化する(本誌掲載立体化教材参照)。

一連の作業のうち、^②を行う理由は、変体仮名の連綿や文字の区切りを理解するために、ある程度の行間が必要であるからで、特に、視覚障害学生が触読によって文字の区切りを理解するためには不可欠な工夫である。

(3) 絵画の教材化

絵巻の画面内容を学習するために、暗眼者の学生には、(1)で撮影した画像をプリントアウトし、全場面のモノクロコピーを配布した。これ以外に、授業中にカラー画像をプロジェクターで投影することで画面内容の理解が深まった。

ただし、視覚障害の学生に対しては画像のコピーを配布するだけでは不十分で、画面についても立体化教材が必須である。ところが、多色使いで細かな線も多い画面の加工においては、詞書で用いたフォトショップによる作業が応用できなかった。

そこで、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画研究領域において、古画の模写や修復技術を学んだ卒業生や在學生に協力を仰ぎ、手作業による描き起し図(トレース図)を制作するという方法を採用した。作画にあたって、脇野佳世子氏(日本学術振興会特別研究員)、五十嵐有紀氏(日本学術振興会特別研究員)、鷹濱春奈氏(同大学院博士課程在学)からの協力を得、共立本「竹取物語絵巻」上巻と下巻より各々一場面ずつのトレース図を制作し、これに基づく立体化教材を完成させることができた。

なお、トレース図制作の方法や作業過程については、五十嵐氏による報告を本誌に掲載しているので、併せてそちらを参照していただきたい。

三 「竹取物語絵巻」を用いた学習の成果

本研究課題を通じて制作した教材を、二〇一五年度四月から、筆者は本学文芸学部専門科目である「日本美術史演習」(通年科目)にて利用している。

晴眼者の学生たちは、詞書と画面のコピーを手元に置いて、「字典かな」(笠間書院)と『新日本古典文学大系』(一七、岩波書店)所収の活字本を参照しながら本文を読み、さらに詞書と画面内容の対応関係などの分析を行う。毎回の授業で、一人十五行〜二〇行程度を課題として割り振って輪読する形式で進めている。

新大系版の本文を読めば、そこに答えが書いているようなものであるので、変体仮名の学習が初めてという学生もそれを参照しながら翻刻に取り組むことができています。ただし、共立本は新大系版の底本である天理大学附属図書館本系統の本文とは異同もあり、最終的には自ら変体仮名を読解しなくては完全な翻刻ができない。この点にも共立本を変体仮名学習の教材として用いる利点があると考えます。つまり、本作に関する完全な翻刻資料は現在のところ存在せず、学生一人ひとりが取り組んでいる翻字が、世界で最初の翻刻資料となる臨場感を体験することができる。この授業での翻刻作業を通じて、共立本における明らかな誤写なども発見でき、写本には各々個性があることを、学生が自らの経験を踏まえて理解することに結びついている。

一方、視覚障害者の学生も、立体化教材を用いて同じペースで学習をすることができている。「字典かな」の代わりに、前年度までに日本語日本文学コースにて制作した立体化字典を用い、新大系版の代わりに、点訳されている角川ソフィア文庫版の本文を参照している。障碍のあるなしに関わらず、同じ条件下で学びの時間を共有できることは、この演習を担当している筆者にとっても、また学生たちにとっても新鮮な経験である。

ただし、絵画部分の立体化教材に関しては、実際に利用してみるとまだまだ課題も多い。特に、情報量の多い画面内容のどこを省略してどの部分を線として残すかという点で、制作する我々の側もこれを利用する学生の側も、未だ試行錯誤中である。引き続き授業に用いながら改善を重ねることで、より利用の実態に即した教材を目指していきたい。現在は、墨と岩絵具との触感の違いに着目し、岩絵具を使用した模写を制作することで、より精密な触読教材が制作できるのではないかとこの点について検討中である。

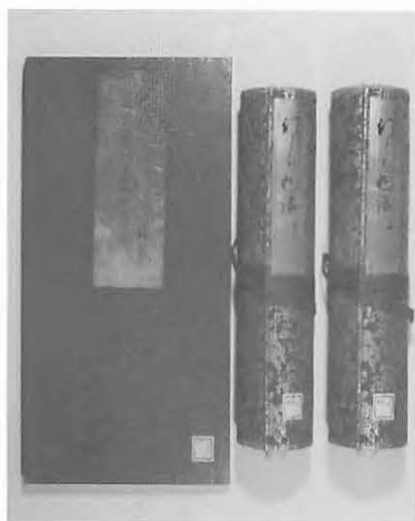
なお、この授業では図書館にて原本の閲覧も実施した。日ごろはモノクロのコピーやプロジェクトターの画像、そして立体化教材を通じてしか触れることのできない対象の「本物」に触れ、自ら繰り返し鑑賞することによって、全ての参加学生に驚きと喜びを伴った感動が深く刻まれたことと思う。コピーなどの代替物では観察しきれない細部が、原本を前にすると鮮やかに浮かび上がってくる。特に、

視覚障碍の学生にとって、触れることは「読むこと・見ること」に直結する。図書館での閲覧を通じて、絵巻の大きさ、重量感、質感、におい、詞書と絵の比率などを的確に把握し、以後の学習にも大いに益している。

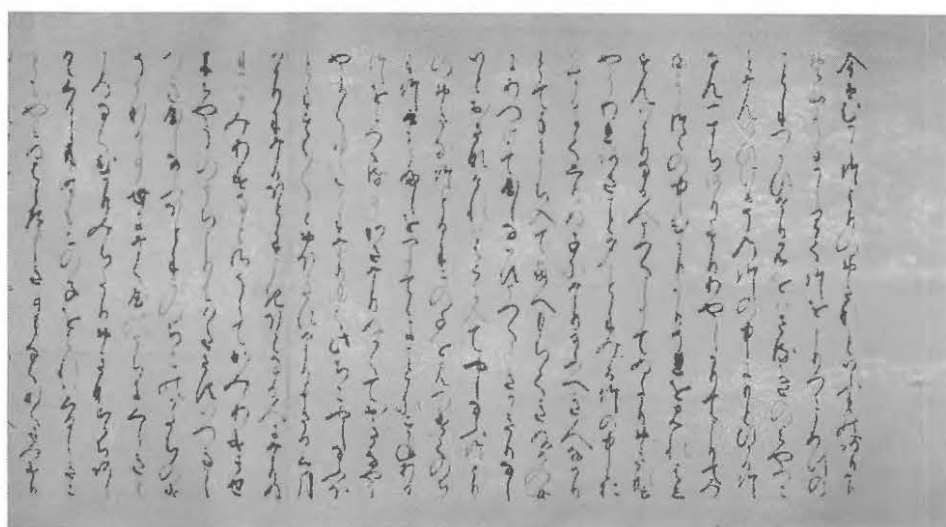
おわりに

本研究課題で、視覚障碍者と暗眼者がともに利用できる変体仮名学習教材の制作に取り組んだ。その過程で、視覚障碍学生のために行った工夫の多くが、変体仮名を初めて学習する他の学生たちにとっても有益であることに思い至った。絵巻の詞書を読みやすく加工することが、変体仮名学習の導入部分で、全ての学生たちにとって助けとなったのである。

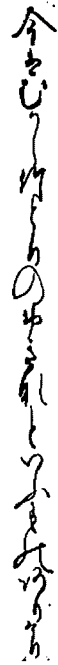
変体仮名という、現代に生きる我々にとって等距離に隔たっている文化を学ぼうとする際に、立体化教材というささやかな工夫を導入することで、日常生活に存在する障碍者と健常者の間の不均衡が少なからず緩和される。今回試作した立体化教材そのものは、改善の余地を多く残してはいるが、これを用いた授業に参加した学生たちは、多様性の中で自らも存在するための手がかりを、日々獲得しつつあるのではないかと大いに期待している。



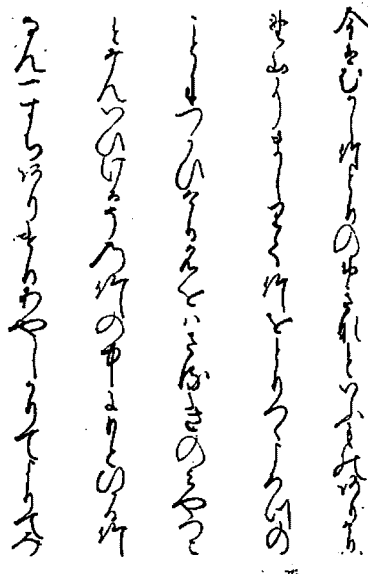
(図1-1) 共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」上下二巻



(図1-2) 共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」上巻詞書第一段



(図2)「竹取物語絵巻」上巻第一段詞書、画像を加工して墨書だけを抽出し一行目を切り取った状態



(図3)「竹取物語絵巻」上巻第一段詞書、一行ずつ加工したものを再構成した状態